

平成30年度 宣真高等学校 学校評価総括

1 めざす学校像

仏教的な慈愛の精神を基調とした、他者への思いやりを実践できる女性を育成するとともに、社会において自主的・自立的に活躍できる女性となるためのキャリア教育の充実を目指す。生徒一人一人の個性、適性をよりよく伸ばし、生き生きと自己表現できる教育環境を整えたい。規範意識、公衆道徳、マナーの面において他者の模範となるような生徒を養成して、地域から信頼される学校でありたい。

2 中期的目標

1. 学習指導の補強

- ①学習到達度の低い生徒への対応として、各学年ごとに定期考査の一定期間前から勉強会を設け、継続的な指名講習、希望者対象のまとめ講習を常態化する。
- ②コース・エリア独自に設定した授業、設定科目を見直して、希望する進路に寄与する知識・技能を習得させる。

2. 進路指導における自立心の育成

- ①1年次から将来的な展望を探らせるために、職業体験や職業セミナーといった外部の催しに積極的に参加させて、多様な職種と自己の可能性について考察する機会を作る。
- ②教室外登校生や不登校生の転学・退学率を下げ、カウンセリング室対応等を通じて、学習・行事参加・進路保障の設定をより有意義な形にする。

3. 安全指導の強化

- ①痴漢・自転車事故・薬物被害、ネット犯罪等に遭わないよ、起こさないように防犯意識を高める。
- ②「いじめ」につながるトラブル・誹謗中傷を起こさないように、情報モラルと人権尊重を高める。

4. 教育支援活動の効率化

- ・学習、学校活動において困難な事由を有する生徒について、特に他の機関、組織と情報交換を行い、対象生徒の円滑な学校生活につながるような協力体制を合理化する。

3 本年度の取組および自己評価

中期的目標	今年度重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己評価
1 学習指導の補強	①学習到達度の底上げ、欠点補習の定着	①課題や宿題を効果的に実施したり、各学年で、欠点保有者と科目を調査して、科目担当者を学年団からおのの選び、補講教室と時間割を組んで生徒に公表する。まとめ講習は希望制で受け付ける。	①宿題の設定状況、呼び出し補習の実施期間、指名生徒参加率、考查での欠点回復率、懇談時の保護者からの評価	①成績不良者対象に根気強く教科別講習を行っており、考查での成績上昇率も5割以上を維持しているが、同時に授業への参加し姿勢が良好に変化したとの報告が聞かれる。担当教師との信頼関係が補講により強化されたか。保護者からの満足的評価も懇談ではよく聞かれる。その一方で、やはり理解度が高い生徒のための特別な実践には、事前準備が追い付かないというジレンマがある。チャイム同時入室の徹底も前年度よりさらに高まっており、この点については生徒保護者からも高い評価を得ている。
	②コース・エリアの特色作り	②コースやエリアのガイダンスを行い、それぞれの目標と意義を生徒に強く認識させ、効果的な内容を精査する。	②各教科、各コース、各エリアの行事や計画策定、選択講座の見直し、放課後講習の策定	②コース別のガイダンス、外部での説明会、コースセミナー、大学短大別のバスツアーの計画などを同規模で実施できた。特にアドバンスコースを中心にした国語英語の希望者講習も定着し、生徒の意欲にこたえる機会の設定が浸透しつつある手ごたえがある。全学年で看護系コースの予備校と提携しての90分課外授業は満足度が高い。パティシエコースの農園での稲作も実施され、アニメコースの夏季のイベントまんが祭でも生徒たちの実行力が発揮されて、生き生きとする場がふえた観がある。
2 社会的自立心	①進路・職業に対する意識付け	①1年次校外の職業体験セミナー、進学相談会などに連れて行き、職種と勤労の意義を学ぶきっかけとする。進学・就職に向けての意欲を底上げし、進路未決者を減らす。ハローワークとの連携による筆記・面接対策の策定。	①実施回数、取組状況、進路決定率、面接練習の希望度	①就職希望者里の10日以上夏休み呼び出し面接練習は、参加者も弱点を自覚しての参加率が高くなった。外部での各学年ごとの進学ガイダンス・職業体験セミナー、外部進学相談会に生徒を引率参加し、大小内外合わせて20回程度開催の達成状況。進路状況は昨年より卒業生数自体が80人少ないので単純比較はできないが、合格者割合では大学3：短大2：専門学校4：就職1は特に変わらず。例年通り面接に自信のない生徒が多いので、面接練習対応に時間が割かれている。

<p>の育成</p>	<p>②不登校生への対応と進路保障</p>	<p>②段階を踏んでのカウンセリング室生の認定、学年における配慮生の選定、カンセリング室担当者の引率により、教室外登校生を各種進路ガイダンスに参加させる。校外学習、文化祭、体育祭等の学校行事にも進んで参加するよう誘導する。</p>	<p>②カウンセリング室生の行事・ガイダンスへの参加度、進路決定者数、カウンセリング体制のルール見直し</p>	<p>②カウンセリング室生同士の関係の調整、配慮生の選定については適切に行われている様である。行事参加状況も同室担任の引率の下、可能な限りの参加がなされ、進路決定も本人の希望に沿う状態であり、呼び出し講習も実施できている。多地区より子ども家庭センターからの報告連絡が激増し、その対応と家庭環境の把握が煩瑣になりつつある。</p>
------------	-----------------------	---	---	--

<p>3 安全指導の工夫</p>	<p>①防犯・無事故につながる指導の徹底</p>	<p>①少年サポートセンターによる薬物講習、痴漢対策講習、薬物講習、また自転車の安全運転の講習の実施。長期休暇に入る前の各終業式での注意喚起のための訓示。</p>	<p>①実施内容、実施回数、講師、被害件数</p>	<p>①薬物講習、痴漢対策講習、自転車事故に関する交通安全講習を警察関係者や自動車学校を講師に招いて実施。プロジェクターや寸劇を交えての講演は、生徒にわかりやすい工夫がなされており、事後のアンケートや感想でも理解度は高い。トラブルや犯罪を遠ざけるための「用心」「予見力」を身に着けるために、ケーススタディを積み重ねる必要性はいささかも衰えない。</p>
	<p>②友人間トラブルを起こさない指導</p>	<p>②全体での情報モラル講習の実施。各学年の全体集合による、不用意な発言(SNS)の自制についての訓示を各学期に実施。</p>	<p>②生徒指導事故の発生率、学年指導内のトラブルの状況、SNSルール順守・違反の現場状況</p>	<p>②情報モラル教育と人権教育は学年別に全体HRで講師を招いて実施。さらにトラブル発生たびに情報モラル指導が学年HRで行われている状況。特に1年での事故件数が多いのは精神・公共心の未熟さ、他者への感応力の欠如ゆえと思われる。スマホ使用を介した生徒間トラブルをなくすため、常に生徒間の人権意識を高め、教員に相談しやすい雰囲気作りと、いじめの芽の早期発見に努め続けたい。</p>

<p>4 教育率支援活動の</p>	<p>支援学校との連携</p>	<p>豊中支援学校への相談、コーディネーター派遣要請、校内支援委員会との会合・連携</p>	<p>相談対象生徒の個別指導案と教育支援教育案の完成度、保護者・担任・学年団との意思統一の度合い・対象生徒家庭の満足度</p>	<p>担任学年とCR係教員が対象生徒・保護者とのかかわりや言動について、逐一記録を取っているのでコーディネーターとの「分担」も明確化されて、支援教育についての計画方針がまとまった。事前準備の必要性和、教員間の共通認識をいかに広げ、配慮のもととなる狙いや期待効果を明確にしておくかが、生徒本人・家庭の満足度につながると確認できた。</p>
-----------------------	-----------------	---	---	--

4 学校関係者評価

学校関係者は自己評価の結果を踏まえ、次のように評価している。

1. 成績不良者に対する放課後勉強会を始め、各授業担当者が授業外で指導を行うなど学習面でのサポートが高く生徒・保護者から評価されている。今後も学び直し等を充実していただきたい。
2. コースやエリア独自に設定されている授業や行事について生徒、保護者からの理解、評価が高い。引き続き生徒満足度の高いコースやエリアを今後も数多く設定していただきたい。
3. 生徒指導について一辺倒の指導ではなく、その時の状況や背景を考慮し生徒の個々に応じた伝え方や指導方法は評価できる。今後も引き続き実施していただきたい。
4. 放課後の進学等希望者講習は評価できる。今後はより進学に対応した講習が望まれる。
5. 女子校特有の危険とその予防対策について、よく啓蒙・講習が行われていることは大変評価できる。
6. 支援計画の必要な生徒の学校生活を充実するため関係機関と緊密な連携や教員間のネットワークが有効に機能している。引き続き関係機関と連携し積極的に対応していただきたい。
7. 生徒の進学・就職のガイダンスは必要であり、大学の人気学部や学科、人気職種の最新の情報を生徒に提示してほしい。
8. スマホやSNSを使っての友人間トラブルや誹謗中傷について、生徒に対して学校の方針を厳しく注意指導するとともに、保護者に対しても協力を願い一体となって取り組む必要がある。
9. 生徒の抱える問題が多様化する中で、それに対応するための知識と方法を身につけるため教員研修の充実が必要である。
10. 大学入試改革により、センター試験の変更やAO・指定校推薦に変化が生じてきている。変化に対応した取り組みや生徒のキャリア形成の指導等の充実が必要である。

|